

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 9月27日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本 2017)

地域事業名：海とつながる人・体験

実施団体名：北海道セーリング連盟

小樽築港バイエリア委員会

担当者名：牧原 経一

TEL：0134-33-1340

---

事業完了日	29年9月20日
事業費総額	2,069,089 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	519,089 円
助成金額	1,550,000 円 (万円未満は切り捨て)

---

### 事業内容：

「海辺を楽しもう」を体験するイベント：

- 海と日本プロジェクト ポート天国in夏休みロングラン
- 海と日本プロジェクト ポート天国マリンフェスタ
- 海と日本プロジェクト 市民海上大運動会
- 海と日本プロジェクト いかだレース大会

「沖に出てみよう」を体験する乗り物：

- \*一人で操ろう：1人乗りカヌー、2人乗りカヌー、SUP
- \*家族で楽しもう：ローボート
- \*ヨットを操ろう：アクセスデンギー
- \*クルーザーに乗ってみよう：20Fクルーザー乗船体験

1.事業目標の達成状況：

【申請時の目標】

「老若男女不問」「長期開催」「低料金」「参加回数制限なし」「参加資格制限なし」という、本当に誰でも充分海を楽しんでいただける環境のもと、海に親しみ笑顔が生まれ、違う自分を発見してもらうキッカケを創る事を目標に事業展開しております。

各イベントの数値目標は以下の通りです。

イベント名	開催日	開催期間	参加予定人数
海と日本プロジェクト ボート天国in夏休みロングラン	7/22～ 8/19	24日	1,100名
海と日本プロジェクト ボート天国マリンフェスタ	7/16	1日	230名
海と日本プロジェクト 市民海上大運動会	8/6	1日	30名
海と日本プロジェクト いかだレース大会	8/20	1日	60名
のべ合計	7/16～ 8/20	27日	1,420名

【目標の達成状況】

ボート天国 マリンフェスタが悪天候のため開始 1 時間程度で中止を余儀なくされたため、参加者数が大幅に減りましたが、メインイベントであるボート天国 in 小樽夏休みロングランでは目標を上回る皆様の参加を得ることができました。海上大運動会、いかだレース大会では好天にも恵まれほぼ予定通りの参加を得て盛況のうちに開催されました。

全体としては、当初の目標を達成できたと考えております。

各イベントの実績は以下のとおりです。

イベント名	開催日	開催期間	参加予定人数
海と日本プロジェクト ボート天国in夏休みロングラン	7/22～ 8/19	23日	1,229名
海と日本プロジェクト ボート天国マリンフェスタ	7/16	1日	29名
海と日本プロジェクト 市民海上大運動会	8/6	1日	28名
海と日本プロジェクト いかだレース大会	8/20	1日	63名

のべ合計	7/16～ 8/20	26日	1,349名
------	---------------	-----	--------

## 2.事業実施によって得られた成果：

孫と来て昔の経験をチョット自慢そうに語るお祖父さん、海を知らない海外の旅行者、子供にヨットを気軽に体験させたいと関東、中部からいらっしゃる親子、夏休み中皆勤賞と胸を張る男の子、「楽しかった！」「出来る様になった！」「子供の成長を感じた！」という様にたくさんのドラマが生まれました。

「海とつながって笑顔が生まれる事」という目的は大いに果たされたものと考えております。

## 3.成功したこととその要因

「告知」「オペレーション」「無事故」「好天」により成功裏に終わったと感じております。

予算の制限もありメディアへの大きな露出は出来ませんでした。毎年続けたイベントである為「口コミ」での評判も高かったです。

来場者には子供が多く、状況によっては危険を伴いますが、状況に応じて細かな事にまで対処した結果、26日間無事故が達成できました。

また海象・来場者数・スタッフ数に応じた適切な対応も、安心感と満足に繋がりました。

## 4.失敗したこととその要因

約一ヶ月のロングラン開催の為、ボランティアスタッフの確保に苦慮しました。今回はオペレーションでなんとか乗り切りましたが、スタッフの負担が大きく、来場者への安全確保の為にも、さらなる人数の確保が必須です。

## 事業成果物：

1. 写真集
2. プレスリリース資料
3. プレス報道記事
4. イベント告知資料
5. 参加者名簿
6. アンケート

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年5月29日から H29年9月20日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,500,000	1,550,000	1,500,000	-50,000	
自己負担	500,000	519,089			
収入合計	2,000,000	2,069,089			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	533,000	660,840	660,840	0	
諸謝金	480,000	470,800	470,800	0	
交通費		52,800	52,800	0	
宿泊費				0	
食費/食材費	117,500	138,167	138,167	0	
消耗品費	160,000	261,661	261,661	0	
賞状/賞品/記念品	250,000	207,169	207,169	0	
業務委託費				0	
広報宣伝費	195,000			0	
会議費				0	
印刷製本費	19,000	46,980	46,980	0	
保険料	197,000	189,300	189,300	0	
通信運搬費		39,104	39,104	0	
什器備品費				0	
雑費	48,500	2,268	2,268	0	
支出合計	2,000,000	2,069,089	2,069,089	0	

(様式)

1/2

助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 8月25日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本 2017)

地域事業名：海と日本プロジェクト in むつ

実施団体名：青森県セーリング連盟

むつヨットクラブ

担当者名：傳法 高平

TEL：0175-39-9040

---

事業完了日	29年8月24日
事業費総額	513,593 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	123,593 円
助成金額	390,000 円 (万円未満は切り捨て)

---

事業内容：

- 1、海辺でBBQ、海水浴
- 2、乗船体験（ディンギー、コーチボート等）
- 3、ヨットについてのお話、模擬レース（ディンギー）

---

1.事業目標の達成状況：

【申請時の目標】

- 1、海辺のBBQや海水浴を通じて、自然の良さを感じる
- 2、実際にヨットに乗って楽しさを知る
- 3、レースの楽しさを理解する

### 【目標の達成状況】

- 1、海辺の BBQ では海産物を味わうことができた。また、海水浴では浮き輪やライフジャケットを着用し、安全に海を満喫できた。
- 2、乗船体験では当日は自衛艦の出入りはあったものの、風も良好で十分ヨットを楽しむことができた。また、プレジャーボートも借用でき、海からの風景を堪能することもできた。
- 3、レースについてのお話では借用した DVD を鑑賞したが、ヨットの乗船準備に時間がかかり、お話はできなかった。また、模擬レースでは4レース行いレースの楽しさを理解することができた。

### 2.事業実施によって得られた成果：

日常体験できないヨット乗船、BBQ、海水浴を体験して海の楽しさ、安全性を体験できた。

### 3.成功したこととその要因

ヨット乗船体験、BBQ、海水浴・・・むつヨットクラブ、大湊高校関係者の協力により成功できた。

### 4.失敗したこととその要因

ヨットのお話・・・ヨット乗船準備に時間がかかり、準備不足もあった。

---

### 事業成果物：

海産物をメインとした BBQ、海水浴で楽しい夏の思い出。

ヨット経験者の普及。

将来のヨット選手の拡大。



(様式)

2/2

収支計算書

( H29年6月26日から H29年8月24日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	390,000	390,000	390,000	0	
自己負担	138,600	123,593			
収入合計	528,600	513,593			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料		90,000	90,000	0	
諸謝金	175,000	175,000	175,000	0	
交通費	43,600	348,880	348,880	0	
宿泊費	50,000	52,800	52,800	0	
食費/食材費	90,000	75,366	75,366	0	
消耗品費	80,000	68,957	68,957	0	
賞状/賞品/記念品	250,000	15,120	15,120	0	
業務委託費					
広報宣伝費					
会議費					
印刷製本費					
保険料					
通信運搬費		1,470	1,470	0	
什器備品費					
雑費	90,000				
支出合計	528,600	513,593	513,593	0	



助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 10 月 31 日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本 2017)

地域事業名：千葉の海に丸ごと触れ合おう！あなたの海の日！

実施団体名：千葉県セーリング連盟

担当者名：伊藤 亮一

TEL：090-5818-2593

FAX：043-235-1534

事業完了日：平成29年7月17日

事業費総額 2,006,488 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 506,488 円

助成金額 1,500,000 円 (千円未満は切り捨て)

事業内容：

名称 ～海と日本プロジェクト～

「千葉の海に丸ごと触れ合おう！あなたの海の日！」

海の日を含む7月15日～17日の3日間で、千葉市やヨットハーバー管理者とも連携し、また、メディアも活用して広報を行い、計画どおり事業を実施した。

- ① クルザー体験・・・親子でクルージングを楽しむ。
- ② ディンギー体験・・・ディンギーでヨットの爽快さを知る。
- ③ ジュニアセーリング観覧・・・モーターボートに乗って、ジュニアクラブなどのヨット練習を見学する。
- ④ カッター体験・・・みんなで力を合わせカッターをこぐ。
- ⑤ カヌー体験・・・カヌーに乗って海を散歩する。
- ⑥ 絵日記コンテスト・・・海での一日の思い出を絵日記に描く。

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

① クルーズ体験 7月15, 16, 17日	80人
② ディンギー体験 7月15, 16, 17日	60人
③ ジュニアセーリング観覧 7月15, 16日	48人
④ カッター体験 7月17日	24人
⑤ カヌー体験 7月17日	64人
⑥ 絵日記コンテスト 7月17日	96人
合計	372人

### 【目標の達成状況】

① クルーズ体験 7月15, 16, 17日	53人
② ディンギー体験 7月15, 16, 17日	87人
③ ジュニアセーリング観覧 7月15, 16日	37人
④ カッター体験 7月17日	20人
⑤ カヌー体験 7月17日	26人
⑥ 絵日記コンテスト 7月17日	53人

### ※ ⑦千葉テレビの海プロ事業

「海でつながるゴミ拾い」への協力	40人
合計	316人

※ 計画申請時には予定していなかった事業であるが、メディア取材対応をしている中で、千葉テレビも海プロ事業として「海でつながるゴミ拾い」を実施することが判明したため、当県連の海プロ事業に合わせて共同して当該事業を実施することとなった。

## 2.事業実施によって得られた成果：

この事業を実施し、多くの方に参加していただいたことにより、稲毛ヨットハーバーを中心とした海辺の活性化を図ることができ、また、これからも日常的に海に親しむ人が多くなるよう海の日についてもアピールできた。

また、エコバックの配布や千葉テレビと連携してゴミ拾いを実施したことにより、海の環境を守ることの重要性についても啓発できた。

## 3.成功したこととその要因

(1) 参加者の目標をほぼ達成できたこと。(316人/372人≒85%)

主な要因としては、次の3点が考えられる。

- ① 千葉県セーリング連盟では、稲毛ヨットハーバーの活性化やヨット人口の増加を図るため、日頃からヨット教室やヨット体験事業などを実施しているところであり、今回もこうした方針の一環として、県連関係者が一致団結して熱心に事業に取り組んだこと。
- ② 千葉市、千葉市教育委員会、千葉市体育協会をはじめ、千葉テレビ、ベイFM、千葉日報社、読売新聞千葉支局、朝日新聞千葉総局、毎日新聞千葉支局、JCOMなどのメディアとも連携して、十分周知を行えたこと。
- ③ 3日間天候と風に恵まれたこと。

(2) 千葉市セーリング協会、ハーバーを管理する(公財)千葉市スポーツ振興財団をはじめ、日頃から稲毛ヨットハーバーを利用する日本海洋少年団千葉市連盟、千葉障害者セーリング協会、レミッションヨットクラブ等の関係団体間の連携が一層強化されたこと。

主な要因として、これまではあまり交流がなかったが、事前準備段階での様々な打合せやメールでのやり取りやイベント当日の役員間の交流により、お互いの理解が進んだことが考えられる。

#### 4.失敗したこととその要因

(1) 失敗とまでは言えないが、クルーザー体験とカヌー体験が目標を下回ったことについては、クルーザー体験は各事業が無料の中で唯一有料であったこと、ポスターやHPなどでこのイベントだけ事前申込が必要と周知してきたことから当日の申し込みが少なかったこと、また、カヌー体験は会場がヨットハーバーから離れた浜だったことなどが要因と考えられる。

#### 事業成果物：

- 海の日本プロジェクト(海の日啓発イベント)ポスター60枚、チラシ1,200枚
- 54組の親子による絵日記

## 収支計算書

( 2017年 6月 9日から 2017年 9月 22日まで )

## 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,490,000	1,500,000	1,500,000	-10,000	
自己負担	504,220	506,488	506,488	0	
収入合計	1,994,220	2,006,488	2,006,488	0	

## 支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	1,375,420	1,374,250	1,374,250	0	
諸謝金	335,000	335,000	335,000	0	
交通費				0	
宿泊費				0	
食費/食材費	79,800			0	
消耗品費	54,000	162,466	162,466	0	
賞状/賞品/記念品	70,000	30,270	30,270	0	
業務委託費				0	
広報宣伝費	80,000			0	
会議費				0	
印刷製本費		96,730	96,730	0	
保険料				0	
通信運搬費		4,394	4,394	0	
什器備品費				0	
雑費		3,378	3,378	0	
支出合計	1,994,220	2,006,488	2,006,488	0	

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 9月30日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本 2017)

地域事業名：マリンフェスティバル2017

実施団体名：東京都ヨット連盟

担当者名：山本 俊貴

TEL：090-8744-0084

---

事業完了日	29年9月25日	
事業費総額	1,460,796 円	(収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	360,796 円	
助成金額	1,100,000 円	(万円未満は切り捨て)

---

### 事業内容：

#### ①海を体験する

セーリングクルーザー体験、デインギー体験、カヌー・SAP等様々な道具を用いて海を体験してもらう。

#### ②海の食材による食事の提供

築地から直に仕入れた、江戸前を中心とし海の食材を、普段肉食中心の子供達に食してもらい、海の食材の素晴らしさを体験してもらう。

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

#### 1) イベント別参加者数

①海を体験する・・・・・・・・・・300名

②海の食材による食事の提供・・・・・・・・150名

合計450名

#### 2) 事業目標

東京湾の海に触れて、食して、普段こんなに近くに海を体験できる場所があったという事を来場頂いた方に再認識してもらいたい。

### 【目標の達成状況】

#### 1) イベント参加人数

①海を体験する・・・・・・・・・・412名

②海の食材による食事の提供・・・・・・・・200名

合計612名

## 2.事業実施によって得られた成果：

事前の広報も綿密に実施できたくさんの方々に集まっていただけました。多くの方は海は危険なだけの場所とされています。特に東京湾で海辺で楽しむという認識はなかったと思います。しかし来場された方々の感想や帰りの表情は、様々な体験を通じて海辺は楽しむ場所という認識に変わったことと思います。また海産物のふるまいコーナーでは単にふるまうだけでは無く、シーフードのレシピを料理の先生に講演してもらい、体験を通じて家にレシピを持って帰り、今までなかった海産物への関心を高められたことは大変な成果であったと思います。

## 3.成功したこととその要因

### ①海辺の体験

ただクルーザーに乗るだけではなく、体を動かす SUP やカヌー、また簡単にセーリングできるハンザクラスなどを用いたことでより海辺体験のハードルを下げる事ができたことが成功の要因と考えます。

### ②海の食材による食事の提供

海の食材に親しんでもらうために、シーフードを題材としてレシピの紹介を

料理学校の講師に依頼し、わかりやすく楽しく実施できた。その後に実際に紹介したレシピの料理をふるまって、来場者にシーフードに親しんで頂けたと思います。

#### 4.失敗したこととその要因

東京海上保安部への行事申請で体験乗船は旅客の申請を国土交通省にしないと許可しないとのことで、予定していた東京湾での体験が大幅に縮小せざるを得ない状況となった。

事業成果物：

- 1) 海の食材による食事の提供・・・・食事風景写真
- 2) 海を体験する・・・・・・・・・・体験風景写真
- 3) メディアへの露出
  - ①東京ベイネットワーク(株) 番組名 「チャンネルバイトピックス」
  - ②MXTV 番組名「お江戸に恋して」

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年6月25日から H29年9月25日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,460,000	1,100,000	1,460,000	360,000	
自己負担	487,000	360,796			
収入合計	1,947,000	1,460,796			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	780,000	635,560	635,560	0	
諸謝金	260,000	364,000	364,000	0	
交通費				0	
宿泊費				0	
食費/食材費	352,000	142,137	142,137	0	
消耗品費	505,000	228,479	228,479	0	
賞状/賞品/記念品	50,000	24,840	24,840	0	
業務委託費				0	
広報宣伝費		64,800	64,800	0	
会議費				0	
印刷製本費				0	
保険料				0	
通信運搬費		980	980	0	
什器備品費				0	
雑費				0	
支出合計	1,947,000	1,460,796	1,460,796	0	



(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年12月20日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：オリンピック海場体験2017

実施団体名：神奈川県セーリング連盟

担当者名：小阪 康司

TEL：090-2338-6137

FAX：0466-22-3366

---

事業完了日：平成29年9月15日

事業費総額 2,061,589 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 521,589 円

助成金額 1,540,000 円 (万円未満は切り捨て)

返還見込み額 40,000 円

---

### 事業内容：

「海と日本プロジェクト オリンピック海場体験2017」

- 1) オリンピックのメイン会場となる江の島ヨットハーバとレース海域の葉山新港間を艇で往復することで、レース海域及びオリンピック海場の体験
- 2) 江の島ヨットハーバ及び葉山新港の2会場で参加者を募集し、各々のハーバーから出港し、葉山新港、江の島ヨットハーバを訪ねる。この往復のツアーの間に、海上体験を通しオリンピックセーリング海面の雰囲気を経験する。
- 3) 江の島会場では、他にセーリングクルーザーの体験も実施する。

---

### 1.事業目標の達成状況：

#### 【申請時の目標】

- 1) 往復の体験クルーズ：加者を児童及びその保護者とし、江の島会場及び葉山会場で各々96名募集する(合計192名 対象は小学生及び保護者：保護者一人で児童5人ま

で)

2) 江の島会場では、クルーザーによる体験セーリングを実施する。2隻で実施し、午前、午後の2回×2日間として、64名を募集。

3) 募集は、江の島会場は藤沢市のオリンピック準備室と連携し、市内を中心に小学生へ募集を行う。市民へのオリンピック実施キャンペーンの一環としての活動として市へ広報活動を依頼する。

4) 葉山町も同様に町内の小学生を中心に参加者を葉山町で募集する。

5) 葉山町は、オリンピック開催までに町民全員の海上体験を目標とされていることで、このイベントも児童と保護者の乗船体験の一環として町の行事と連携する。

6) ハーバーのある地域であるが、住民(児童)が海に出る機会は今まで少ない事で、オリンピックの開催を前に、海の体験、セーリング等、地域の人達が気軽に海に親しむ環境を整備したい。

#### 【目標の達成状況】

実施当日の天気予報が雨天であったことで、当日キャンセルが出たので、予定募集人員の80%の参加でした。しかしながら、雨は降らず、夏にしては涼しい気候で波も無くクルージングには最適な状況であり、参加者は海上を高速で移動するクルージングを楽しんだ。

#### 2.事業実施によって得られた成果：

1) 主に藤沢市、葉山町(県下、都からの参加者も多い)の参加者にオリンピック実施の海域と江の島・葉山間の距離と位置が理解された事で2020年オリンピックを身近に感じてもらえた。

2) 江の島の1964年オリンピックのモニュメントである聖火台前での記念撮影が好評であった。江の島セーリングの伝統を感じてもらえた。

3) 海への親しみ、興味を参加の子供達に感じてもらえたと思える。

#### 3.成功したこととその要因

藤沢市、葉山町の行政の協力が大きい。また葉山町は町のボランティア団体が参加者の案内に参加・協力していただいた。

藤沢市でも、マリン事業支援のボランティア団体(マリンフェロウズ)も運営協力を得た。

#### 4.失敗したこととその要因

天候等の不安(雨天や波や風の問題)に対しての参加者への対応方法が十分で無かったことが、キャンセル発生の要因の一つと思える。

海上経験の無い参加者へ対して、事前の説明資料を用意しておく必要を感じる。

---

事業成果物：

- 1) 夏休みに多数の児童に海（海上）体験をさせることができた。
- 2) 子供と親（祖父・祖母も含め）が一緒に体験できるイベントを実施できた。  
夏休みの体験として良かったのかと思える。
- 3) 2020年オリンピックの実施を具体的に参加者に感じてもらえる事ができた。
- 4) 江の島が世界でも初めて同じ場所で2回目のオリンピック開催することを、江の島の1964年に設置された聖火台を見ることで参加者が理解され、素晴らしい事である事の理解がされた。（聖火台は記念撮影スポットになる）
- 5) 江の島・葉山間の大型クルーザー2隻により多数乗員移動を時間通り実施することで、今後のこの地域の海上交通に関する実験的な成果も得られたと思う。（オリンピック等での陸上交通の混雑の代替機能を海上で対応できること）

(様式)

2/2

収支計算書

(2017年 7月 17日から 2017年 9月 15日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,580,000	1,540,000	1,580,000	40,000	
自己負担	531,210	521,589			
収入合計	2,111,210	2,061,589			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	1,090,560	932,656	932,656	0	
諸謝金	364,000	364,000	364,000	0	
交通費					
宿泊費					
食費/食材費					
消耗品費	434,650	505,073	505,073	0	
賞状・賞品・記念品					
業務委託費					
広報宣伝費					
会議費					
印刷製本費	151,500	167,760	167,760	0	
保険料	70,500	70,500	70,500	0	
通信運搬費					
什器備品費					
雑費					
支出合計	2,111,210	2,061,589	2,061,589	0	

(様式)

1/2

助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 12月25日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：海と日本プロジェクト IN 聖籠マリンフェスタ

実施団体名：新潟県セーリング連盟

担当者名：津野 洋

TEL：090-3100-6532

---

事業完了日	29年12月25日
事業費総額	104,884 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	24,884 円
助成金額	80,000 円 (万円未満は切り捨て)
返還見込み額	400,000 円

---

事業内容： 事業中止となる。

H29.7.12 開催地である新潟県聖籠町の臨時職員が、海開き準備中に流され死亡した事により、聖籠町が7.16開催の今事業、及び同時開催の聖籠マリンフェスタの中止の措置をとった為。

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年7月12日から H29年12月25日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	480,000	80,000	480,000	400,000	
自己負担	160,000	24,884			
収入合計	640,000	104,884			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	200,000				
諸謝金	200,000				
交通費	10,000				
宿泊費					
食費/食材費	50,000				
消耗品費	10,000				
賞状/賞品/記念品	75,000	64,800	64,800	0	
業務委託費					
広報宣伝費	40,000				
会議費					
印刷製本費	20,000	37,800	37,800	0	
保険料	30,000				
通信運搬費	5,000	1,744	1,744	0	
什器備品費					
雑費		1,080	1,080	0	
支出合計	640,000	104,884	104,884	0	

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 10月 12日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：～海と日本プロジェクト2017～in 二色の浜

実施団体名：大阪府ヨットセーリング連盟

担当者名：藤原 洋彰

TEL：072-423-0064

FAX：072-431-8645

---

事業完了日：平成29年 6月 25日

事業費総額 1,761,694円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 441,694円

助成金額 1,320,000円 (万円未満は切り捨て)

返還見込み額 - 50,000円

---

### 事業内容：

毎年6月末日の日曜日 海開き前に行われる大阪湾クリーン作戦にあわせた事業を実施する。

二色の浜の清掃後、午前 午後の分けての体験セーリングを実施。

---

### 1.事業目標の達成状況：

#### 【申請時の目標】

大阪湾クリーン作戦に参加の周辺地域の団体 及び一般の方々に 清掃後の海岸をみながら クルージングを体験していただき 海と海のレジャーにふれる機会をつくり セーリング人口の底辺の拡大を目標とする。

### 【目標の達成状況】

梅雨真っ只中ということもあり、生憎の天気となった。 9:00~予定していた大阪湾クリーン作戦は 行政主体であり その判断により中止となった。自主的な 清掃作業に切り替えることも考えたが 雨天の中の 安全面へのリスクも懸念され 取りやめた。 体験クルージングについては 初めて乗られる方も多く 雨天の中ではイメージも悪くなることも予想されたが 幸いクルージング予定時間帯には 小雨となり 希望者も多かったことから 実施できた。 安全な航海のためにも 参加者全員にライフジャケットの着用を乗船受付で必須とした。 各艇の中でも艇長からセーリングについて説明があり、体験にこられた方々には 十分喜んでいただけたと 思う。

### 2.事業実施によって得られた成果：

ジュニアスクールのパンフレットを持ち帰ってくれた方々も多く、実際に問い合わせもあった。まだ開催の決定もしていない 来年度の乗船依頼もあったり、小雨ちらつく中ではあったにも関わらず 楽しんでいただけた。 キャンセルが数件あったが 昨年とかわらない 146人が参加した。

### 3.成功したこととその要因

昨年の開催経験より スタッフも天候が不安定な中 即座に対応できた。

### 4.失敗したこととその要因

---

事業成果物：





収支計算書  
( 2017年 6月 19日から 2017年 10月 11日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,270,000	1,320,000	1,320,000	-50,000	
自己負担金	430,000	441,694	441,694		
収入合計	1,700,000	1,761,694	1,761,694		

支出の部

科目	予算額	決算額	決算額	未払額	備考
賃借料	1,280,000	1,255,000	1,255,000	0	
諸謝金	100,000	238,000	238,000	0	
交通費	50,000	43,820	43,820	0	
宿泊費					
食費・食材費	50,000	27,920	27,920	0	
消耗品費	45,500	54,756	54,756	0	
記念品	112,500	89,640	89,640	0	
業務委託費					
広報宣伝費					
会議費					
印刷製本費		27,000	27,000	0	
保険料	60,000	24,030	24,030	0	
通信運搬費	2,000	1,528	1,528	0	
什器備品費					
雑費					
支出合計	1,700,000	1,761,694	1,761,694	0	

(様式)

1/2

助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 10月31日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施

(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：和歌浦・海物語2017

実施団体名：和歌山県セーリング連盟

担当者名：中村 厚子

TEL：073-448-0251

---

事業完了日	29年9月7日
事業費総額	1,808,922 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	458,922 円
助成金額	1,350,000 円 (万円未満は切り捨て)
返還見込み額	140,000 円

---

事業内容：

- ・子供を含む家族で、クルーザーヨットに乗船しセーリング体験をする。
- ・自分たちの住んでいる和歌山を海から見てみる。
- ・全国高校総体ヨット競技のレースを観戦し、出場している選手を応援する。
- ・自分を守るために、海の安全について考えてみる。

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

- 自分たちがすむ和歌山を日常とは異なる方向から海から見ることで、その魅力を再認識する。
- 海の美しさを感じるとともに、流れてくるゴミも直視し、環境について家族で話し合う機会とする。
  - スポーツに打ち込む全国の高校生を応援することで、自分たちにも力をもろう。
  - 海の安全について家族で、参加者皆で考える機会とする。

### 【目標の達成状況】

ライフジャケットの着用を促し、重要性を理解していただきました。  
海での安全な楽しみ方、楽しさと危険は隣り合わせにあることを伝えることができました。

## 2.事業実施によって得られた成果：

クルーザークラブの方々との連携ができ、お互いに協力しながら海を安全に楽しみことを共有できました。

また、日本遺産に認定された「和歌の浦」のすばらしさ・和歌浦湾の美しさを海から見る経験することができ、貴重な体験になりました。

インターハイの出場している選手を近くで応援でき、きれいな海のある和歌山を県民の誇りとして、きれいな海を存続していくことの重大さを再認識できました。

## 3.成功したこととその要因

天候に恵まれたため、海の雄大さを味わい、きれいで心地よい風でクルージングを満喫できました。和歌山オーシャンヨットクラブの皆様のご協力で、子供から大人までそれぞれ楽しむことができました。

## 4.失敗したこととその要因

携帯メールからの応募で、こちらからのメールが受信できない方がいました。また当日来ない方がいたため、協力していただいた艇に待機等の不愉快な思いをさせてしまいました。

アンケートに漢字が多く、言葉がむつかしいので小さな子供は書けませんでした。

昨年度の寄せ書きのほうが子供達にはよかったと思います。

事業成果物：

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年8月2日から H29年9月7日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,490,000	1,350,000	1,490,000	140,000	
自己負担	508,000	458,922			
収入合計	1,998,000	1,808,922			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料		708,000	708,000	0	
諸謝金		518,000	518,000	0	
交通費	630,000			0	
宿泊費	90,000			0	
食費/食材費	600,000			0	
消耗品費		229,340	229,340	0	
賞状/賞品/記念品	200,000			0	
業務委託費	300,000			0	
広報宣伝費		300,000	300,000	0	
会議費				0	
印刷製本費	10,000	15,000	15,000	0	
保険料	165,000	38,150	38,150	0	
通信運搬費	3,000			0	
什器備品費				0	
雑費		432	432	0	
支出合計	1,998,000	1,808,922	1,808,922	0	

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 7月31日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施

(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：鳥取県セーリング連盟

実施団体名：美保湾ヨットクラブ

担当者名：竹本利治

TEL：0859-26-1517

---

事業完了日 29年8月3日

事業費総額 1,631,097 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 411,097 円

助成金額 1,220,000 円 (万円未満は切り捨て)

---

### 事業内容：

- ① クルザーによるレースヘクルーとして体験乗船
  - ② クルザーへ上艇し操船の体験や風・波・自然を感じる体験型航海
  - ③ ディンギーヨットの体験やジェットスキー体験
  - ④ カヌー教室を開催し、カヌー体験を行う
  - ⑤ 水難救助訓練（皆生ライフセービングクラブによる実技訓練）
  - ⑥ 昨年太平洋単独往復航海を行ったヨットカモメの展示と庄司艇長の講演
  - ⑦ シーフードバーベキュー（地元の魚を味わう・漁協・水産会社の協力）
  - ⑧ 子供用プール4基水遊び遊具（水鉄砲・ボール等）
-

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

想定参加数： 子供150名  
大人250名  
合計400名

### 【目標の達成状況】

日付	項目		大人	子供	計
7月22日	サンセット	予約	27(名)	8(名)	35(名)
		当日	0(名)	0(名)	0(名)
	合計		27(名)	8(名)	35(名)

日付	項目		大人	子供	計
7月23日	デイクルーズ	予約	80(名)	82(名)	162(名)
		当日	213(名)	180(名)	393(名)
	合計		293(名)	262(名)	555(名)

達成率			大人	子供	計
	計画		250(名)	150(名)	400(名)
二日間計	実績		320(名)	270(名)	590(名)
	達成率		128%	180%	148%

## 2.事業実施によって得られた成果：

- ①港公共マリーナへ一般市民が多数来場し、海・ヨットが身近に感じられた
- ②セーリングすることで風の気持ちよさが伝わった、
- ③JETスキーやディンギーカヌーの験により水面に近い距離で海に親しめた、
- ④艇長に事前レクチャーした簡単な海の知識を教えることが出来興味を持った。
- ⑤幼児対象のプールは暑さ対策と共に幼児が安心して水と戯れることが出来た。
- ⑥ライフセーバーによる水難訓練は、飛び込み参加もあり迫力があつた。
- ⑦太平洋往復航海の写真展は興味をもって見ていただいた。
- ⑧シーフードBBQは好評であり、今年も行列となった。



### 3.成功したこととその要因

- ① 事前告知の徹底、マスコミ各社に後援依頼とプレスリリースを持参して取材依頼を行い、地元ラジオでは当クラブスタッフが生出演でのインタビュー形式での告知を行い、テレビ放送では地元2社が事前にヨットに乗っての取材やBBQの取材も行い告知活動ができた。
- ② 今年はポスター無しで、ハンドチラシ（A4）を6千枚印刷しメンバー手分けをして、手配りを行った。
- ③ ハガキやMailの事前予約が、その他のイベントとバッティングしたため昨年より少なく危機感を持った。そこで昨年以上に当日早朝からのチラシ配布の効果が相当あり予約以外の来場者があった。
- ④ フェイスブックやホームページの告知効果があった、申込方法が往復はがき・Mail等々であったが、Mailでの申込が95%以上あった。
- ⑤ ライフジャケットは昨年不足した幼児用を補充したが、合計60着あるライフジャケットが一時足らなくなるほどの盛況であった。

### 4.失敗したこととその要因

- ① 事前予約で乗船希望時間帯を聞いてなかったため、11時ごろから14時まででは、飛込の来場者と重なり、配艇に手間取った。
- ② スタッフの休憩が十分に取れなかった。

---

### 事業成果物：

- ① 境港公共マリーナでヨット関係者以外を集客したイベントとして昨年同様600名近く集めてのヨット普及活動の告知体験活動は、行政・マスコミも注目した。
- ② 漁業協同組合からも魚介類の差し入れや当日はセーリング連盟会長安田県会議員や組合長の陣中見舞いもあり盛り上げの一環となった。
- ③ 短期間での準備であったが、海プロイベントが無事故で成功し、クラブメンバーのホスピタリティー・ボランティア精神の賜物であった。

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年6月21日から H29年8月3日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,190,000	1,220,000	1,190,000	-30,000	
自己負担	400,000	411,097	400,000		
収入合計	1,590,000	1,631,097	1,590,000		

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	480,000	868,613	868,613	0	
諸謝金	455,000	350,000	350,000	0	
交通費				0	
宿泊費				0	
食費/食材費	165,000	149,956	149,956	0	
消耗品費	30,000	73,058	73,058	0	
賞状/賞品/記念品	150,000	95,040	95,040	0	
業務委託費	20,000			0	
広報宣伝費	160,000			0	
会議費	10,000			0	
印刷製本費		19,930	19,930	0	
保険料	70,000	74,500	74,500	0	
通信運搬費	20,000			0	
什器備品費				0	
雑費	30,000			0	
支出合計	1,590,000	1,631,097	1,631,097	0	

(様式)

1/2

助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 11月30日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：海と渚の自然体験フェスティバル

実施団体名：(一社)山口県セーリング連盟

担当者名：中村光恵

TEL：090-9737-4789

FAX：0833-77-0470

事業完了日 29年11月8日

事業費総額 1,794,616 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 454,616 円

助成金額 1,340,000 円 (万円未満は切り捨て)

返還見込み額 160,000 円

事業内容：

1. ビーチクリーン

日時 7月1日(土) 17時~18時

場所 光市虹ヶ浜海岸

内容 県連会員ほか、地域のボランティアの方総勢50名で海岸清掃を行った。約30袋分のゴミを拾った。ゴミは、光市環境事業課へ引き取っていただいた。

また、流木を使った作品制作の材料となる流木も協力して収集した。これは、「きれいな海を残そう」ということに広く関心を持っていただくため、海の日に合わせて制作し、しばらくの間、展示を行った。

## 2. 海と渚の自然体験フェスティバル

日 時 7月17日(月) 10時～15時

場 所 山口県スポーツ交流村ヨットハーバーおよび室積海岸周辺

参加者 来場者 1000人(うち体験参加者476人)

スタッフ 170人

内 容 下記内容について開催した。

体験参加者は、受付を済ませた後、①～⑤の各アトラクションに自由に参加した。各アトラクションとも盛況だった。海上のアトラクションだけでなく、熱中症対策として設置したウォーターシューティングや水鉄砲等、幼児～小学生対象の陸上のアトラクションも人気があった。

陸上・海上とも事故・大きなケガなく無事に終了した。

ドローンを使用した映像や記録写真などをホームページ上に公開した。

### ① マリンスポーツ体験(延べ1,502人)

#### ●ディンギーセーリング

SS級 3艇 72人

アクセスディンギー 6艇 192人

SSでは、短時間での周遊の繰り返して体験してもらった。家族や友人との参加が多く、思ったよりもスピードがあると楽しんでた。

アクセスディンギーは、港内での体験で、できる人には自分たちで操船をしてもらった。参加者自身でも操船してもらえるため、手軽にヨットを楽しめていただけた。

#### ●セールクルージング 2艇 96人

大きめのヨットで安心感があり、年齢の高めの方には特に人気があった。ゆったりと乗っていただけて、海を楽しんでもらえた。

#### ●モータークルージング 6艇 504人

気軽に海が楽しめるというところで、着替えなども準備していない方も気軽に参加された。普段目にする事のない海からの景色に感動された方も多かった。

#### ●バナナボート 3艇 336人

安全には特に注意が必要なアトラクションだが、一番人気が高い。

●サーフカヌー 3艇 48人

転覆しづらい形のため、手軽に参加されていた。港内には魚も多く生息しているため、観察も楽しんでいた。

●サップ（於：室積海岸） 14艇 224人

主会場であるヨットハーバーからボートで海岸まで移動して体験をしてもらった。初めて体験する方も多く、悪戦苦闘されていた。波があったので、立てるまでに時間がかかっていた。

●アクアボール 30人

ボールの中でうまく立って移動することがかなり難しいようだった。体験している人だけでなく、周りにいる人たちも見て楽しんでいた。

② ネイチャークラフト 47人

2種類の素材を準備し、ビーチで拾ったシーグラスや貝殻などを組み合わせて自由に創作した。

③ ウォーターシューティング&水鉄砲 200人

ウォーターシューティング

レースで使用するブイ（大）を配置して、2チームに分かれての対戦型のシューティングゲームを実施した。金魚すくいのポイを額に取り付け、穴が空いた時点で終了。残ったチームが勝利となる。

最初は、人が集まりにくかったが、列ができるほどの人気アトラクションになった。

水鉄砲

幼児～小学校低学年対象に水鉄砲遊びを行った。地面を濡らして気温を下げる、また体を冷やすことが目的だったが、参加する子どもたちが後を絶たず、当初の目的以上の成果が出た。

④ 魚すくいゲーム 120人

大きい水槽に水をためて魚のフィギュアを浮かべ、金魚すくいのポイで魚をすくうゲームを実施した。水槽の中で遊ぶのが楽しいのか、魚を捕らず、水遊びをする子どもであふれていた。

⑤ ボルダリング 50人

地域でボルダリングのショップを開いている団体に依頼し、移動できるボルダリングタワーを設置し、ボルダリング体験を実施した。

#### ⑥ 流木アート

ビーチクリーン時に収集した流木などを使用して、2週間程度かけて流木ゴジラを制作した。予想を上回る反応で、地域のテレビや新聞などにも取り上げられ、流木や漂流物に関心を多くの人に持ってもらうことができた。SNSなどで広く拡散されていたようで、県外から見学に来られる方もおられた。

当日は、食品トレーやブルーシートを利用して、海の中にゴジラが立っているようなアート作品を参加者と一緒に制作した。

#### ⑦ ウォーターアート

「堀川玄太氏」によるウォーターアートパフォーマンスを開催した。

県内で活躍しているパフォーマーで、「水」というキーワードつながりで参加していただいた。石膏ボードに水をかけて作品を作るというスタイルのパフォーマンス。昼休憩を行っている時間に開催したことで、見学する参加者が多かった。

#### ⑧ 屋台

様々な団体に協力いただいて、食事提供を行った。

主な出展内容

光市スポーツ推進委員 かき氷

スポーツNPO法人ひかりクラブ やきそば

里の厨（光市施設指定管理者） おむすび

その他 ピザ、フランク等

### 3 イベントの記録動画作成およびホームページでの公開

#### ① 流木アートの作成風景および当日実施風景の記録作成

定点カメラを設置し、初日から完成までを撮影し、記録動画として作成した。

#### ② 山口県セーリング連盟のホームページリニューアルおよび作成動画等の公開

海やセーリングへの興味・関心を高める目的で、これまでのホームペ

ージをリニューアルした。イベントに合わせて情報提供を行ったことで、セーリング愛好者だけでなく多くの方に見てもらうことができた。

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

マリンスポーツ体験 300人  
障害者のハンザ操船体験 30人  
海から我が町を眺めるクルージング体験 50人  
親子対抗サップリレー  
ビーチクリーン&ネイチャークラフト体験 40人  
地元の漁師さんと交流する地引き網体験 40人  
地元自治体、商工会による屋台、物販 500人

### 【目標の達成状況】

マリンスポーツ体験（障害者のハンザ操船体験含む） 710人  
海から我が町を眺めるクルージング体験  
（セールクルージング、モータークルージング） 600人  
親子対抗サップリレー → サップ体験 224人  
ビーチクリーン 50人  
ネイチャークラフト体験 50人  
地元の漁師さんと交流する地引き網体験  
（時期的に魚が捕れないため、開催不可）  
地元自治体、商工会による屋台、物販  
光市スポーツ推進委員 かき氷  
スポーツNPO法人ひかりクラブ やきそば  
里の厨（光市施設指定管理者） おむすび  
その他 ピザ、フランク等

※開催できない事業があったものの、ほとんどの内容で目標数を上回った。

## 2.事業実施によって得られた成果：

- ①予想を上回る参加者を集客することができた。
- ②参加者の満足度を高めることができた。
- ③イベント状況を記録に残すことができた。
- ④地域のネットワークを構築することができた。
- ⑤広く海の大切さや素晴らしさを啓発することができた。

### 3.成功したこととその要因

- ①集客力が高かった。その要因としては、事前の広報が行き届いたことが考えられる。
- ②満足度が高かった。その要因としては、補助金を得たことにより専門スタッフをはじめとする受入態勢を十分に整えることができたことが考えられる。
- ③集客の割に事故やトラブルがなかった。責任者のリーダーシップが高かったことと、スタッフも参加者と楽しめる雰囲気があり、全体の連携とモチベーションが高かったことが考えられる。
- ④事業終了後も問い合わせが多く反響が大きかった。要因としてはドローン撮影等による事業状況の報告をホームページなどに載せたことや新しい環境保全活動などの新たな取り組みを組み入れたことなどが考えられる。

### 4.失敗したこととその要因

- ①企画したが実行できなかった事業があった。要因としては、核になる運営スタッフを企画段階から参加させられなかったことなどが考えられる。
- ②企画毎の集客力に差が大きかった。要因としては、配置や動線、当日のインフォメーションの仕方などが考えられる。

事業成果物：

- ①ポスター
- ②ちらし
- ③ホームページ





(様式)

2/2

収支計算書

( H29年6月19日から H29年11月8日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,500,000	1,340,000	1,500,000	160,000	
自己負担	500,000	454,616			
収入合計	2,000,000	1,794,616			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	700,000	429,960	429,960	0	
諸謝金	300,000	796,000	796,000	0	
交通費				0	
宿泊費				0	
食費/食材費				0	
消耗品費	150,000	201,448	201,448	0	
賞状/賞品/記念品	100,000	49,253	49,253	0	
業務委託費	350,000	166,463	166,463	0	
広報宣伝費	70,000			0	
会議費	20,000			0	
印刷製本費	150,000	75,600	75,600	0	
保険料	100,000	71,400	71,400	0	
通信運搬費	30,000	2,332	2,332	0	
什器備品費				0	
雑費	30,000	2,160	2,160	0	
支出合計	2,000,000	1,794,616	1,794,616	0	

(様式)

1/2

助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年10月30日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：海と日本プロジェクト in たかまつ

実施団体名：香川県ヨット連盟

担当者名： 齋藤 修

TEL： 090-8699-4036

FAX： 087-883-0120

---

事業完了日 29年10月19日

事業費総額 1,752,142 円 (収支計算書に記載する決算額)

自己負担額 442,142 円

助成金額 1,310,000 円 (万円未満は切り捨て)

返還見込み額 -40,000 円

---

事業内容：

—海辺を楽しもう—

ヨット体験教室 平成29年6月24・25日

参加者数

6月24日 53名、6月25日 57名

スタッフ数

6月24日 16-39名、6月16-25日 42名

「ハンザクラス」3艇、「OP艇」5艇、「セイリングクルーザー」1艇

—沖に出てみよう—

ヨット体験教室 平成29年7月8・9日

参加者数

7月8日 70名、7月9日 64名

スタッフ数

7月8日 16名、7月9日 16名

ボランティア数

7月8日 21名、7月9日 23名

「ハンザクラス」3艇、「OP艇」5艇、「セイリングクルーザー」1艇

※その他にボランティアで「セイリングクルーザー」3艇

—海辺体験を記憶に残そう— 応募期間：平成29年7月17～8月31日

応募作品36点

入選者

(1) 絵画 小学生の部 応募6点

金賞 きらめく瀬戸内海

石塚 心優 (浅野小5年)

銀賞 瀬戸の風を受けて進め!

宅間 結月 (付属高松小2年)

銅賞 大好きなヨット

黒田 開 (亀阜小6年)

特別賞 ヨットとうみ

中井 涼晟 (庵治小1年)

(2) 絵画 中学生の部 応募1点

金賞 サンポート・夏のある1日

富本 優理 (太田中3年)

以下なし

(3) 絵画 高校・一般の部 応募1点

金賞 美しい海を守ろう

谷 緑 (一般)

以下なし

(4) 写真の部 応募28点

金賞 風強し

横内 靖 (一般)

銀賞 風に乗って

後藤 美香 (一般)

銅賞 夕日に映える

吉野 登 (一般)

特別賞 サンポート高松のヨット

陶山 哲夫 (一般)

特別賞 人生初めての

喜多 ゆき (一般)

特別賞 練習開始

曾根 真利子 (一般)

作品展示会

平成29年10月7日～10月15日

## 1.事業目標の達成状況：

### 【申請時の目標】

—海辺を楽しもう—

ヨット体験教室 50名×2日=100名

—沖に出てみよう—

セーリング体験 30名×2日=60名

—海辺体験を記憶に残そう—

絵画・写真コンテスト 応募40点

参加目標 200名

### 【目標の達成状況】

—海辺を楽しもう—

ヨット体験教室 参加者数 6月24日 53名、6月25日 57名

—沖に出てみよう—

セーリング体験 参加者数 7月8日 70名、7月9日 64名

—海辺体験を記憶に残そう—

絵画・写真コンテスト 応募36点

参加実績 280名

## 2.事業実施によって得られた成果：

普段は来場しない、一般市民の方々がヨット競技場を利用し、ヨットを体験した。

マスコミ等でも取り上げられ、結果としてヨットの知名度が向上した。

## 3.成功したこととその要因

スタッフと参加者でのコミュニケーションがうまくとれ、ヨットを始めてみたいという参加者が多かった。

自発的に運営に携わった多くのスタッフがレジェンドとして残った。

## 4.失敗したこととその要因

特に無かった。

## 事業成果物：

絵画・写真コンテスト応募作品36点（データ保存）

## 事業内容：

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年5月23日から H29年10月19日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,270,000	1,310,000	1,270,000	-40,000	
自己負担	430,000	442,142			
収入合計	1,700,000	1,752,142			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	516,400	545,140	545,140	0	
諸謝金	448,000	448,000	448,000	0	
交通費				0	
宿泊費				0	
食費/食材費				0	
消耗品費	200,000	317,638	317,638	0	
賞状/賞品/記念品	140,000	128,800	128,800	0	
業務委託費				0	
広報宣伝費	270,000			0	
会議費				0	
印刷製本費		288,725	288,725	0	
保険料	35,000			0	
通信運搬費		23,839	23,839	0	
什器備品費				0	
雑費	90,600			0	
支出合計	1,700,000	1,752,142	1,752,142	0	

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 10月31日

事業ID：2016402649

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト2017)

地域事業名：ヨットレースを見てみよう！in 新居浜

実施団体名：愛媛県セーリング連盟

担当者名：谷口 多佳子

TEL：090-3181-5477

FAX：089-994-1611

---

事業完了日	29年9月20日
事業費総額	1,952,994 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	492,994 円
助成金額	1,460,000 円 (万円未満は切り捨て)
返還見込み額	40,000 円

---

### 事業内容：

第72回国民体育大会”愛顔つなぐえひめ国体という国内最大のスポーツイベントの機会を活かし、新居浜市を初め、愛媛県内外の子供から一般市民に対して普段なじみの薄いセーリング競技(ヨットレース)を観覧艇に乗り真近で見学する機会を提供するとともに、子供たちに海と触れ合う機会を提供。

---

### 1.事業目標の達成状況：

#### 【申請時の目標】

開催地の新居浜市は工業都市であり、海岸部の大部分は工場地帯となっているため、新居浜市の子供たちは、普段海と触れ合う機会が少ない。

このため、新居浜市で国内最大のスポーツイベントである国体が開催される機会を捉え、子供たちに観覧艇に乗りセーリング競技(ヨットレース)を真近で観戦する機会を提供することにより、セーリング競技の楽しさや感じてもら

うとともに、身近なスポーツと感じてもらい、セーリング競技人口の増加に繋げる。また、他島美で知られる瀬戸内海の美しさやすばらしさを実感してもらうことにより、海と親しみ、海を大切に作る心を育てる。

#### 【目標の達成状況】

1. 観覧艇運行：当初、4日間で360人の参加を見込んでいたが、新居浜市内小中学校から観覧艇乗船希望者が多数となったため、2日間は追加艇を出し対応した。また、当日先着順で募集した一般希望者も長蛇の列をなすほどの人気で乗船できない方も多かったが、4日間で1,006人がヨットレース観戦や洋上観覧を楽しんだ。さらに、大会のレース実況中継を大型モニターで観戦したり、『スマホでヨット』をダウンロードして観戦したりする一般の方も多数見受けられた。

寄せ書き・ぬり絵：観覧艇乗船者全員、会場訪問者が多数参加した。

アンケート：中学生や一般、139人が回答をした。

2. 事業実施によって得られた成果：

洋上でのレース観戦や陸での実況中継観戦は共にJSAF役員や関係者による丁寧でわかりやすい解説が行われ、参加者はヨットの競技の内容やレースの面白さを十分理解することができた。また、子供がヨットに興味を抱くきっかけを確実に作った。

3. 成功したこととその要因

地元民放テレビ・CATVの番組でイベントの告知を行うと共に、競技実施委員会のホームページや県連公式フェイスブックを活用し、事前告知を十分に行ったこと。イベント内容を子供から大人までを対象とした簡素な内容にして、「ヨットレースを見に行こう」と誰もが思える告知を行ったこと。

県内各地から一般参加者が多数訪れたが、大会側にもそれを収容する施設（駐車場・シャトルバス・観覧者おもてなしサービス）と国体イベント（新居浜市国体応援タレントのステージ・レース実況中継等）があったこと。

4. 失敗したこととその要因

特になし。

事業成果物：

- ・リーフレット 2種
- ・寄せ書きと塗り絵（データ提出）
- ・参加者アンケート（原本）
- ・記録写真（データ提出）
- ・テレビ放送（DVD）





(様式)

2/2

収支計算書

( H29年7月10日から H29年10月20日まで)

(単位：  
円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	1,500,000	1,460,000	1,500,000	50,000	
自己負担	500,000	492,994			
収入合計	2,000,000	1,952,994			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料	1,000,000	1,360,800	1,360,800	0	
諸謝金	160,000	120,000	120,000	0	
交通費	80,000	15,100	15,100	0	
宿泊費	180,000	48,816	48,816	0	
食費/食材費	20,000	16,632	16,632	0	
消耗品費	50,000	242,666	242,666	0	
賞状/賞品/記念品	50,000			0	
業務委託費		108,000	108,000	0	
広報宣伝費	50,000			0	
会議費				0	
印刷製本費	50,000	8,080	8,080	0	
保険料	300,000	30,000	30,000	0	
通信運搬費	10,000	1,280	1,280	0	
什器備品費				0	
雑費	50,000	1,620	1,620	0	
支出合計	2,000,000	1,952,994	1,952,994	0	

(様式)

1/2

## 助成事業完了報告書

日本セーリング連盟 会長 河野博文 殿

報告日付：平成29年 7月31日

事業ID：2015329312

事業名：全国各地のセーリング大会における親水事業の実施  
(海と日本プロジェクト)

地域事業名：「海と日本プロジェクト」福岡ビーチフェス

実施団体名： NPO 法人日本ウインドサーフィン協会

担当者名： 福島 英彦

TEL： 090-4373-6419

FAX： 0537-85-5827

事業完了日	29年7月31日
事業費総額	1,048,632 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	258,632 円
助成金額	790,000 円 (万円未満は切り捨て)
返還見込み額	50,000 円

### 事業内容：

子供から大人まで、主に家族を対象としたウインドサーフィンの体験イベントを開催しました。当協会において数年間、福岡で実施してきた初心者を対象としたイベントから福岡の環境がマリンスポーツに非常に適していると感じ、福岡での開催に踏み切りました。都心から非常に近いことなどのアクセスの容易さ。人口が非常に多いこと。若い世代（子供が特に多い）の住民が多いこと。転勤者が多く、地域に接するためにこういったイベントに積極的に参加する流れができていないこと、などが挙げられます。また有力な企業が多いことも対外的にメリットを感じます。

そんな中で実際にマリンスポーツイベントを実施していることが少なく、参加された方に聞くと「どこに行けばこういったマリンスポーツイベントがやっているのかわからなかった」「こういうイベントであれば積極的に参加させていきたい」などの意見を聞きましたので、さらに今後展開していくには日本の中

で有数な都市だと思っています。

#### 1.事業目標の達成状況：

##### 【申請時の目標】

参加募集人数を 120 名と設定致しました。しかし、イベント両日は最高気温 34℃という予想の気象条件の中、キャンセル者が数名出て、103 人の参加となりました。一報、晴天に恵まれたことなどから「海の日」のイベントならではのマリンスポーツの楽しさを思う存分発揮できるコンディションであったと思います。また怪我人や熱中症にかかることもなく、無事故で終わらせることができたことが何よりです。

##### 【目標の達成状況】

#### 2.事業実施によって得られた成果：

まずはウインドサーフィン(セイリング)というマリンスポーツの認知をしていただくには最高のイベントになったと考えます。今まで近くに住んでいながら、マリンスポーツができる場所があることを知らなかったという意見が多く聞かれました。また、翌日に近隣のプロショップさまにウインドサーフィンの数回コースを申し込んでいただいた方がいるなど、直ぐに効果があらわれたことも非常に嬉しかったです。

親御さんのご意見には「今後もマリンスポーツを続けさせたいがどうしたらいいの??」など意見も多く、スタッフが丁寧に対応し、今後に繋げるアプローチに力を入れました。

#### 3.成功したこととその要因

今回は参加者の中に子供が多いということで通常のイベントよりもスタッフを多くしました。その分、細かいところまで目が行き届き、子供達は順番を待っている時間も先生と一緒に遊び、見守る親御さんも安心できる環境になったと思います。これも日本財団さんの補助があってのお話です。本当に感謝しております。また、市の教育庁を通じて、学校関係にチラシをまかせてもらったことにより、短時間に多くの子供達の参加者を募ることができました。こちらでも尽力いただいた NPO さまに感謝です。

#### 4.失敗したこととその要因

参加人数を 120 で締め切った形でしたが、当方が考えているよりも近隣の方々のマリンスポーツに対する興味は大きく、参加人数をもっと募っても良かったと考えています。施設的环境も良いことなどから、受け入れは十分にできるかと

思います。来季も実施できるのあれば200名規模でのイベントを計画したいと考えています。また、今年度から5年計画で実施を予定されている横須賀でのワールドカップや蒲郡での世界選手権と並行しての開催を推進していきたいと考えています。

事業成果物：

マリンスポーツ(今回の場合はウインドサーフィン)の認知度が非常に上がったと思います。やはり、まだまだどこでこういったマリンスポーツをやっているのか??という声が多く聞かれます。少しでも多くのイベントを行うことによって、少しでも多くの方に海と自然の楽しさに触れていただきたいと思います。その為には今回のようなイベントを全国各地で開催することがJWAとしての使命でもあります。

事業内容：

(様式)

2/2

収支計算書

( H29年5月28日から H29年7月31日まで)

(単位：

円)

収入の部

科目	予算額	決算額	受入済額	返還額	備考
日本財団助成金収入	750,000	790,000	750,000	-40,000	
自己負担	250,000	258,973			
収入合計	1,000,000	1,048,973			

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
賃借料				0	
諸謝金		347,000	347,000	0	
交通費	250,000	56,150	56,150	0	
宿泊費	70,000			0	
食費/食材費	30,000	36,968	36,968	0	
消耗品費	90,000	27,359	27,359	0	
賞状/賞品/記念品	80,000			0	
業務委託費	70,000	415,200	415,200	0	
広報宣伝費	200,000			0	
会議費				0	
印刷製本費	40,000	162,600	162,600	0	
保険料	30,000			0	
通信運搬費	120,000	3,696	3,696	0	
什器備品費				0	
雑費	20,000			0	
支出合計	1,000,000	1,048,973	1,048,973	0	